

## II 財務状況の分析

区 分	内 容
財務上の特徴	<p>三浦半島の最南端に位置し三方を海に囲まれており市内の水源に乏しいことから宮ヶ瀬ダム建設事業に参画し、遠く相模川の水を横須賀市から受水している。(平成18年度受水率84.5%)</p> <p>給水収益は、人口減少とライフスタイル等の変化による給水量の減のため、減少傾向にある。平成14年6月に改定率24.31%の料金改定を行い、神奈川県下で最も高い料金となった。(H17.7真鶴町の料金改定により現在県下2番目)</p> <p>経費の40%以上を受水費が占めており、人員削減や委託などの経費削減に努めてきたところであるが、浄水場などの大型施設はなく、削減できる余地も限られてきた状況である。</p> <p>20年度に宮ヶ瀬受水施設関連事業が終了し、翌年度から減価償却費が増額するため、費用の上昇は避けられない状況にある。</p>
経営課題	<p>課 題 ① 人員の削減</p> <p>10年前の平成8年度の職員数は34人(定数39人)であったが、平成9年度から、水道料金徴収をはじめとした業務委託を積極的に行ってきた結果、平成18年度には、職員数24人となった。これ以上の削減は災害時等の体制を考えると、ぎりぎりのところにきているが、全体的な経営を視野に入れ、さらに改革の方向で考えている。</p>
	<p>課 題 ② 料金水準の適正化</p> <p>平成14年6月に改定率24.31%の料金改定を行い、県下で最も高い水道料金となった(H17.7真鶴町の料金改定により現在県下2番目)が、一方で、同じ水源を利用している中で、料金の公平性を強く求められている。</p>
	<p>課 題 ③ 維持管理費等</p> <p>費用の面では、過去において業務の委託に伴う人件費の削減等を行ってきたが、受水費の割合が43.7%、減価償却費22.7%、支払利息9.2%、合計で75.6%となっており、費用の3/4以上を占めている中で、独自の費用削減を行う枠が少なくなっている。</p>
	<p>課 題 ④ 工事コストの縮減</p> <p>施設整備面においては、これまで石綿セメント管の解消を18年にわたり集中して完了させるなど多額のコストを要しており、今後の経営改善においては、工法の工夫などによって少しでも経費の削減を図りたい。</p>
留意事項	<p>神奈川県営水道への統合を希望</p> <p>ほぼ同じ水源を利用しながら、水道料金負担の県民格差が大きいため、神奈川県営水道への事業移管を希望している。現在、県の関係部局と「三浦市水道事業に関する研究会」にて会議を重ねている。</p>

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。